

抗菌薬意識調査レポート 2022

2022年9月30日

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院
AMR臨床リファレンスセンター（厚生労働省委託事業）

■ 一般国民の抗菌薬・抗生物質に関する知識は不十分のまま、数年間変化していない

- ・「抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は16.4%であった。
- ・「抗菌薬・抗生物質はかぜに効く」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は25.2%であった。
- ・「抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は28.3%であった。
- ・抗菌薬に関する知識は、数年前より20%前後の正答率であり、変化が見られなかった。

■ 抗菌薬の不適切な使用が増加している可能性がある

- ・「家にとってある抗菌薬・抗生物質がある」と回答した人は27.4%であった。昨年より9.5ポイント増加した。年代別では10代が43.8%、「同居している15歳以下の子どもがいる」人は40.3%であった。
- ・「とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある」と回答した人は25.5%であった。昨年より9.0ポイント増加している結果となった。
- ・「とっておいた抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある」と回答した人は8.9%であった。

■ 薬剤耐性の問題に対する関心や理解は深まっておらず、その疾病負荷は多くの人に低く見積もられている可能性がある

- ・薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知ったことがあると答えた人は40.1%。2019年から増加は見られていない。
- ・日本における年間の薬剤耐性菌の感染症による死亡者数は、「100人-1,000人未満」が最も多い回答(44.1%)であり、「100人未満」という回答とあわせると60.1%の人が、年間1,000人未満と回答した。
- ・薬剤耐性菌の感染症に対し、自分もかかるかもしれないと思っている人のうち、「すでに対策は取っている」人は0.6%、「特になにもしない」人は74.7%であった。
- ・「ワンヘルスアプローチという言葉を知ったことがある」と回答したのは合計14.1%であった。

■ 受療行動が変化している可能性がある

- ・直近1年間で、熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状が出たときに病院を受診したと回答したのは14.7%。症状はあったが、「受診しなかった」と回答したのは31.7%であった。
- ・熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状が出たときに病院を受診しなかった理由は、「自然に治ると思ったから」が55.4%、「症状が軽かったから」が42.8%。
一方で、「新型コロナウイルス感染症の流行で病院に行くのが怖かったから」18.5%、「新型コロナウイルス感染症と診断されるのが怖かったから」7.2%、「受診できる医療機関がなかったから」7.2% という理由を挙げる人も一定数いた。

■ 基本的な感染対策は浸透してきている 「体調不良で休む」と答えた人は増加

- ・「発熱等の症状で学校や職場を休む」と回答した人は60.0%であった。
2019年から2021年は13.5ポイント、2021年から2022年は9.4ポイントと年々増加した。
- ・今後の感染症予防対策として「咳エチケット」を「必ず行いたい」と回答した人は59.6%で最多。「行いたくない」と回答した人が最も多いのは「ワクチン接種」で13.7%であった。

調査目的

感染症治療に必要な抗菌薬・抗生物質が効かない薬剤耐性(AMR)の問題が世界中で深刻化しています。日本でも2016年に「薬剤耐性(AMR)アクションプラン」が発表され、薬剤耐性についての取り組みが始まっています。薬剤耐性の問題は抗菌薬・抗生物質の不適切な使用が一因とされています。今回の調査は、抗菌薬・抗生物質、および薬剤耐性とは何かについて、現在一般の方がどのように認識されているのかを把握し、問題点と今後の取り組みの方向性を提示することを目的としています。

調査概要

調査期間：2022年8月

調査方法：インターネット調査

調査対象：全国の15歳以上の男女 全国700名

男性10代50名、20代50名、30代50名、40代50名、50代50名、60代50名、70代50名

女性10代50名、20代50名、30代50名、40代50名、50代50名、60代50名、70代50名

設問一覧

- Q1 あなたは抗菌薬・抗生物質という言葉を知っていますか (単数回答、n=700)
- Q2 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください
- Q2-1 抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける (単数回答、n=572)
- Q2-2 抗菌薬・抗生物質はかぜに効く (単数回答、n=572)
- Q2-3 抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい (単数回答、n=572)
- Q2-4 抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおきる (単数回答、n=572)
- Q3 抗菌薬・抗生物質に関する経験についてお答えください
- Q3-1 家にとってある抗菌薬・抗生物質がある (単数回答、n=572)
- Q3-2 とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある (単数回答、n=572)
- Q3-3 抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある (単数回答、n=572)
- Q4 あなたは薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知っていますか (単数回答、n=700)
- Q5 あなたは日本で年間どれくらいの方が薬剤耐性菌の感染症で亡くなっていると思いますか (単数回答、n=281)
- Q6 あなた自身や身近な人が近い将来(数年以内に)薬剤耐性菌の感染症(肺炎、尿路感染症など)にかかると思いますか (単数回答、n=281)
- Q7 薬剤耐性、薬剤耐性菌の対策についてお答えください (単数回答、n=281)
- Q8 あなたはどこに薬剤耐性菌がいると思うかそれぞれお答えください (単数回答、n=281)
- Q9 あなたはワンヘルスアプローチという言葉を知っていますか (単数回答、n=700)
- Q10 例えば今朝起きたら、だるくて鼻水、咳、のどの痛みがあり、熱を測ったら37℃でした
あなたは学校や職場を休みますか (単数回答、n=700)
- Q11 あなたは直近1年間で、熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状が出たときに病院を受診しましたか (単数回答、n=700)
- Q12 あなたが熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状で病院を受診した際、何と診断されましたか (複数回答、n=103)
- Q13 あなたが熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状で病院を受診した際、抗菌薬・抗生物質を処方されましたか (単数回答、n=103)
- Q14 あなたが抗菌薬・抗生物質を処方された際の行動についてお答えください (単数回答、n=68)
- Q15 熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状がありながら、病院を受診しなかった理由をお答えください (複数回答、n=222)
- Q16 今後の感染症予防対策として、あなたが続けようと思っていることをお答えください (単数回答、n=700)

Q1 あなたは抗菌薬・抗生物質という言葉を知っていますか

(単数回答、n=700)

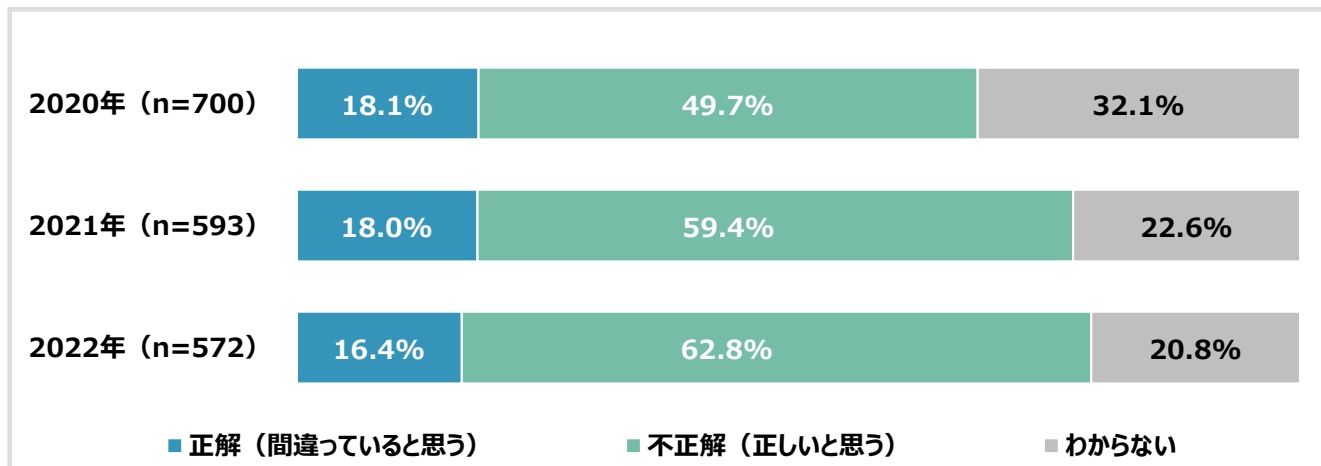


抗菌薬・抗生物質という言葉を知っている人と回答した人は81.7%であった。
「聞いたことがない」と回答したのは18.3%となった。

Q2 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

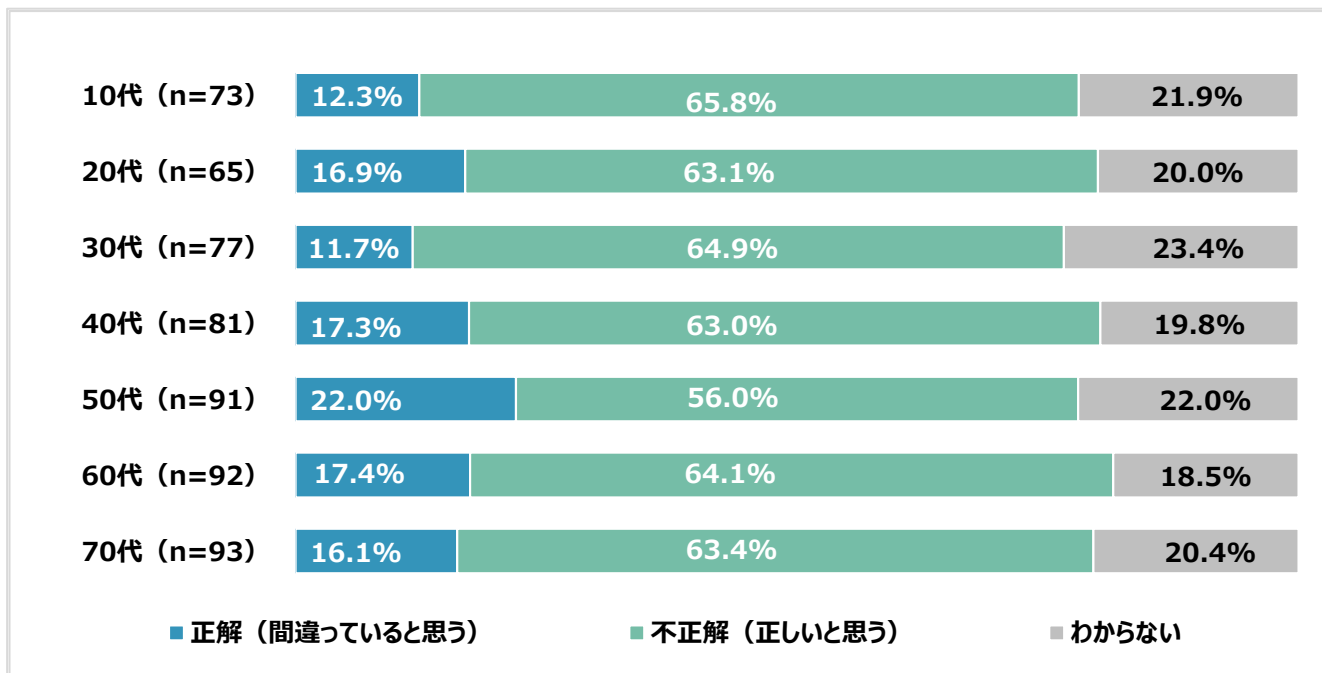
(単数回答、n=572)

Q2-1 抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける



「抗菌薬・抗生物質という言葉を知っている」と回答した572人のうち、
「抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は
16.4%、「正しいと思う」と回答した不正解の人は62.8%であった。
2020年、2021年との大きな差はない結果になった。

【年代別】

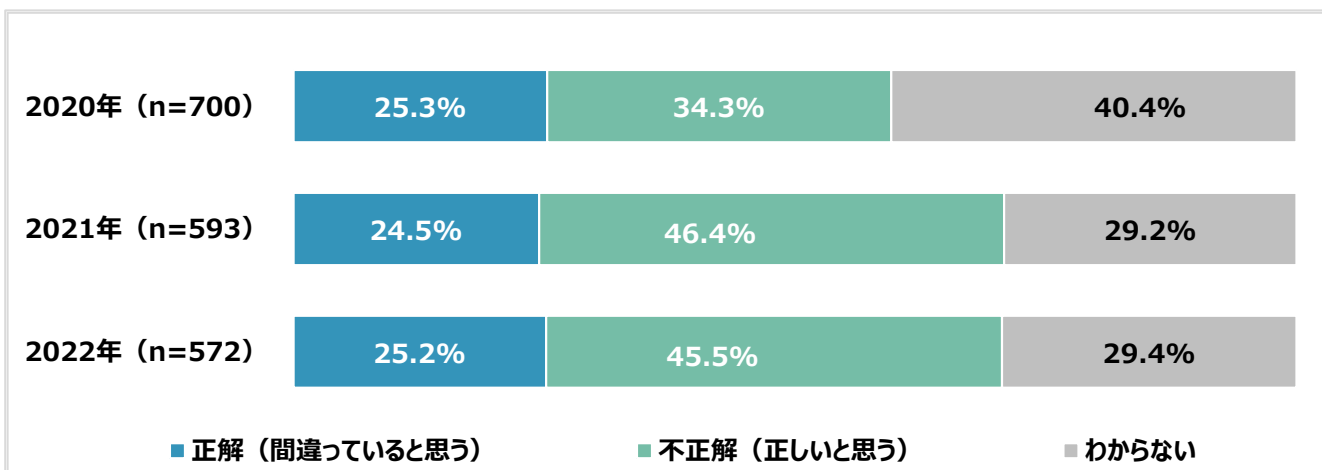


年代別で比較をすると、正解者の割合は10代(12.3%)と30代(11.7%)が低くなっていた。

Q2 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

(単数回答、n=572)

Q2-2 抗菌薬・抗生物質はかぜに効く



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある」と回答した572人のうち、「抗菌薬・抗生物質はかぜに効く」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は25.2%、「正しいと思う」と回答した不正解の人は45.5%であった。2020年、2021年と比較しても大きな差はなかった。

Q2 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

(単数回答、n=572)

Q2-3 抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい

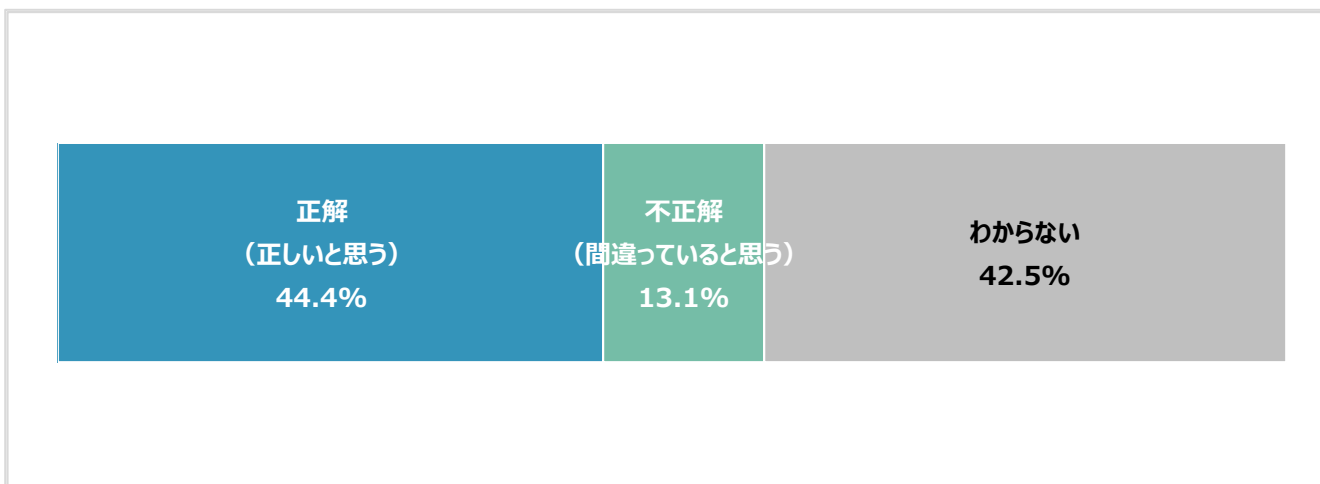


「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある」と回答した人のうち、「抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は28.3%、「正しいと思う」と回答した不正解の人は43.2%であった。

Q2 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

(単数回答、n=572)

Q2-4 抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおきる

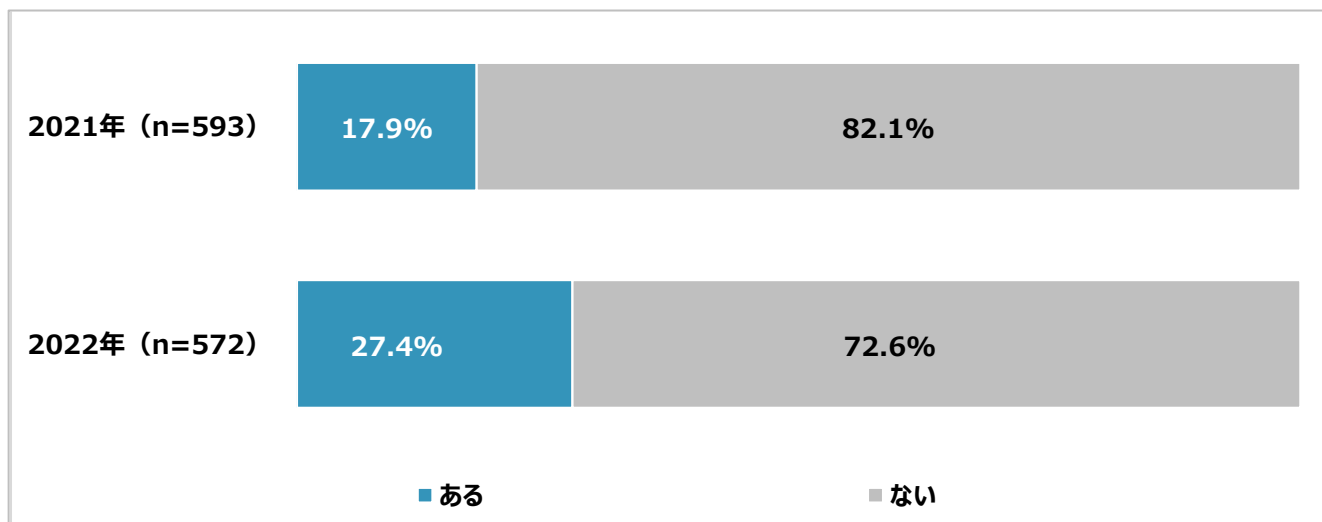


「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある」と回答した人のうち、「抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおきる」に対して「正しいと思う」と正しく回答した人は44.4%、「間違っていると思う」と回答した不正解の人は13.1%であった。

Q3 抗菌薬・抗生物質に関する経験についてお答えください

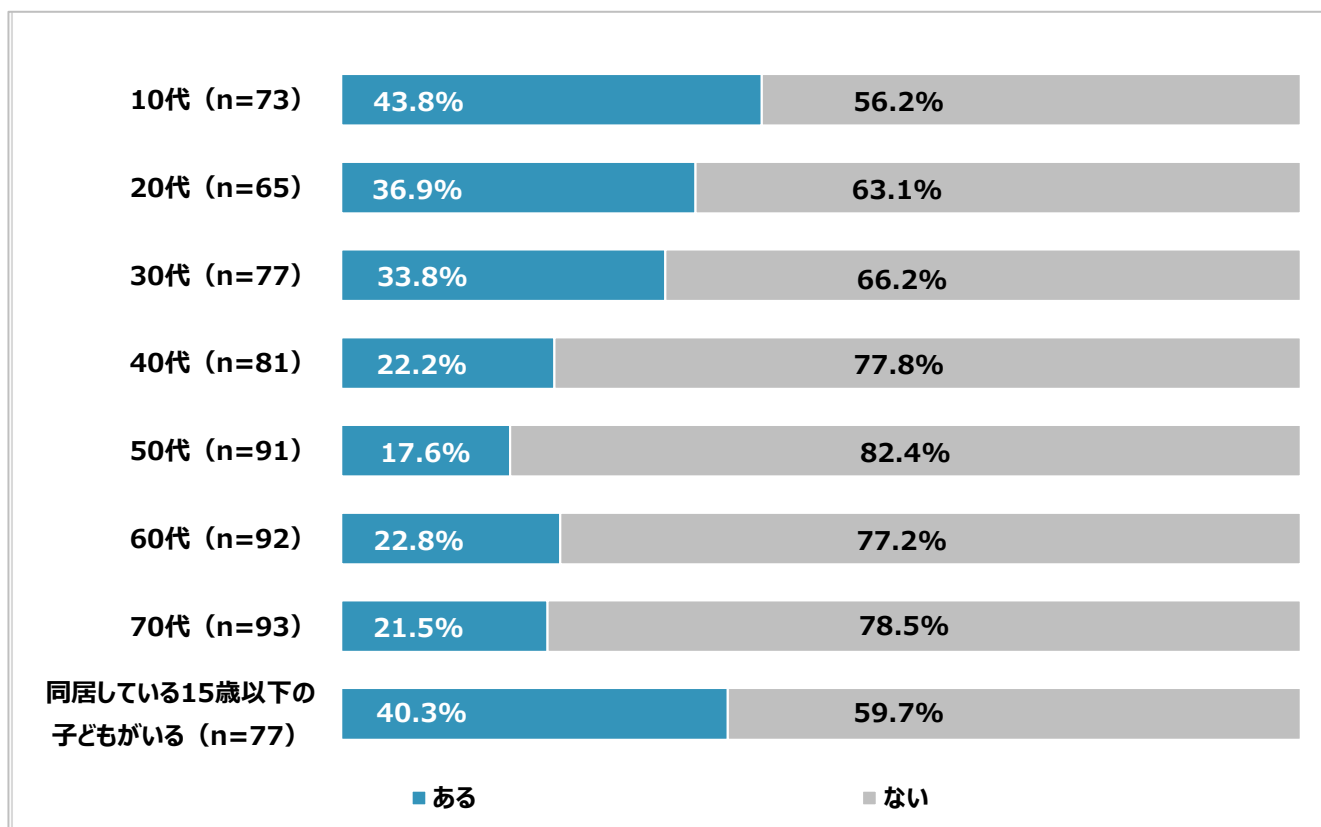
(単数回答、n=572)

Q3-1 家にとってある抗菌薬・抗生物質がある



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある」と回答した人のうち、「家にとってある抗菌薬・抗生物質があるか」に対して「ある」と回答した人は27.4%、昨年より9.5ポイント増加した。「ない」と回答した人は72.6%であった。

【年代別】

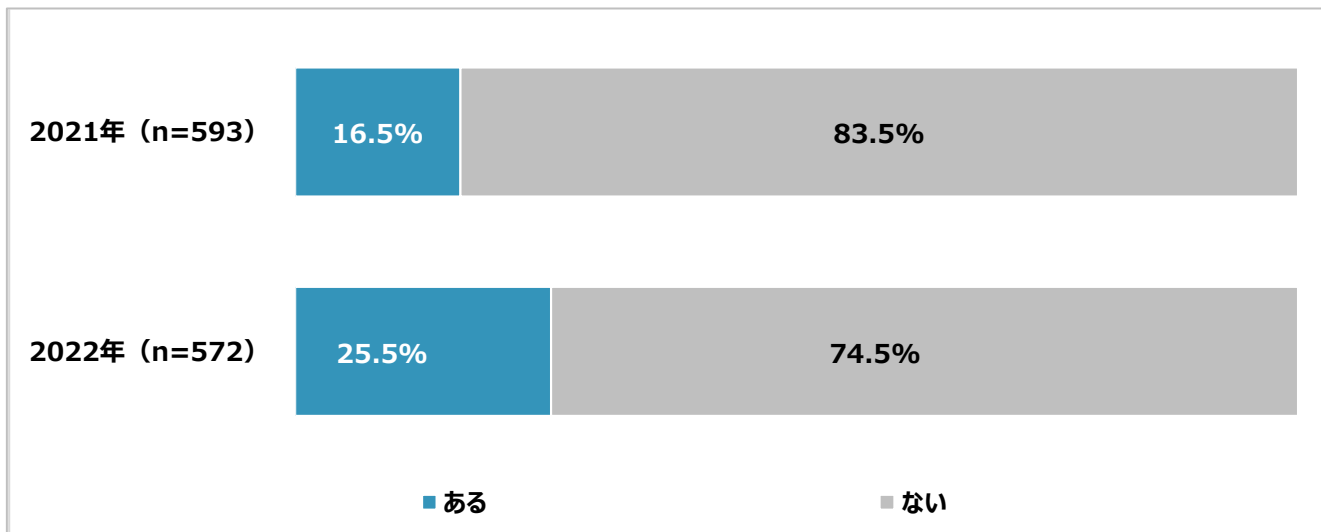


「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある」と回答した人のうち、「家にとってある抗菌薬・抗生物質があるか」に対して年代別で比較をすると、10代は43.8%と高い数値となっている。また、「同居している15歳以下の子どもがいる」人は40.3%であった。

Q3 抗菌薬・抗生物質に関する経験についてお答えください

(単数回答、n=572)

Q3-2 にとっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある



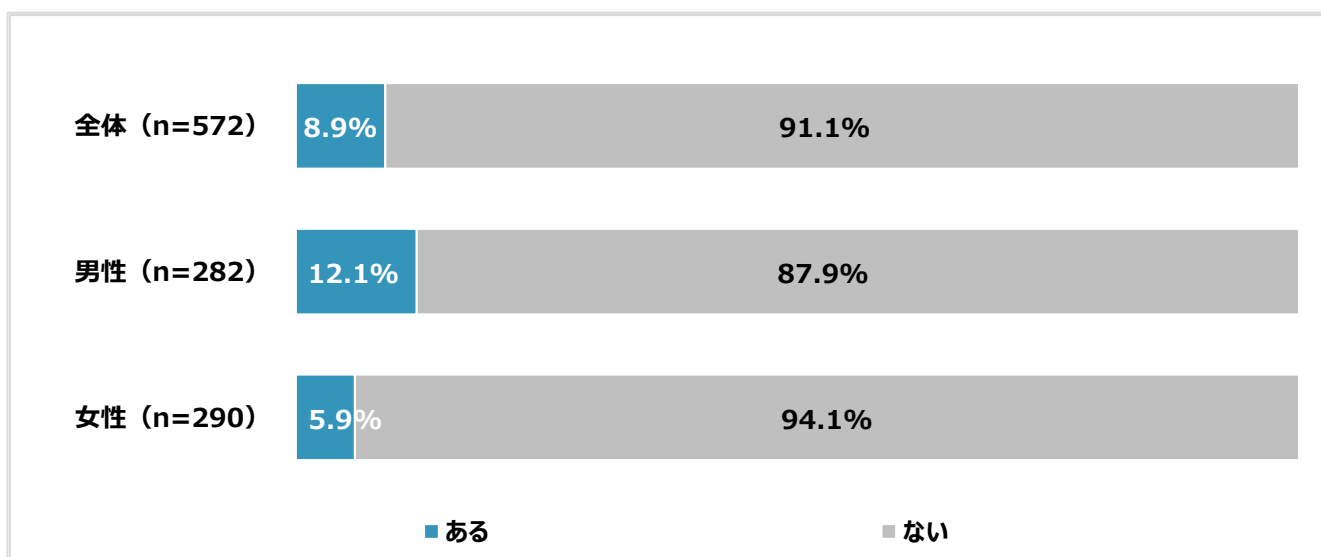
「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある」と回答した人のうち、「にとっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある」と回答した人は25.5%であった。昨年より9.0ポイント増加している結果となった。

Q3-1と合わせて考えると、抗菌薬をとっておいた人のほとんどが後から自己判断で飲んでいることになる。

Q3 抗菌薬・抗生物質に関する経験についてお答えください

(単数回答、n=572)

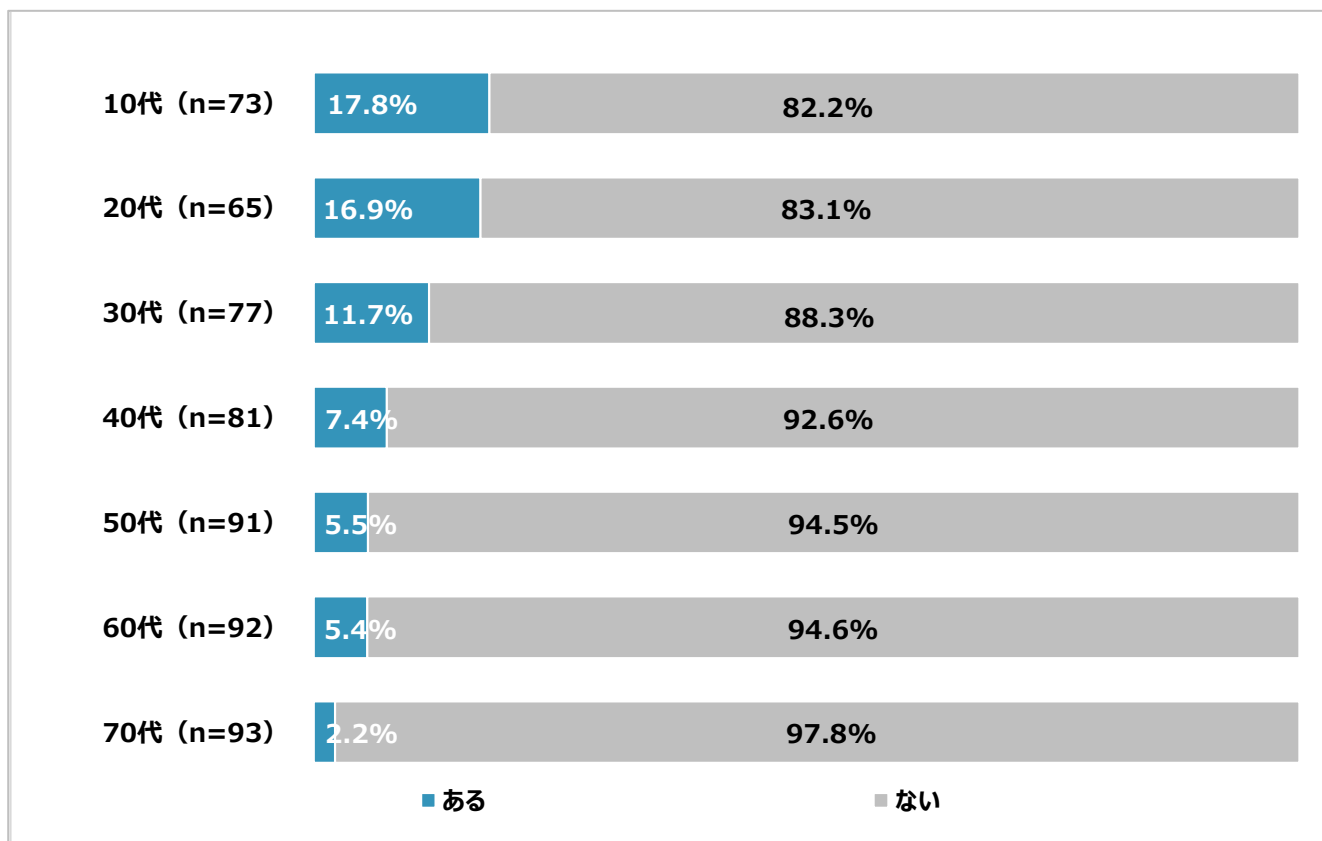
Q3-3 抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある」と回答した人のうち、「にとっておいた抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある」に対して「ない」と回答した人は91.1%、「ある」と回答した人は8.9%であった。

性別で比較をすると、男性は12.1%が、女性は5.9%が「ある」と回答している。

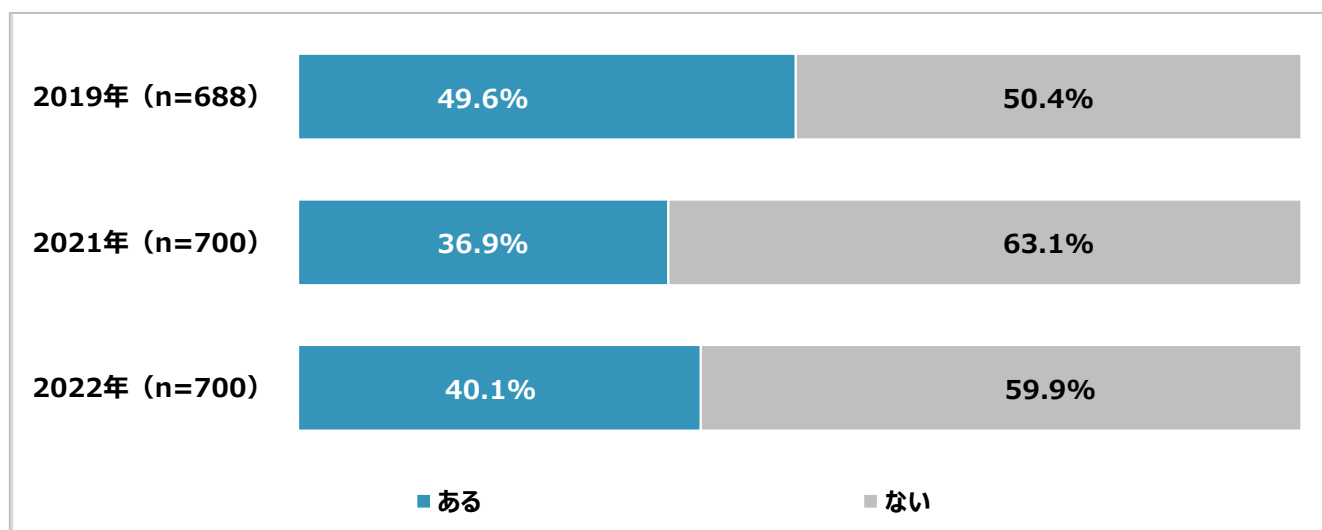
【年代別】



また、年代で比較をすると、10代は17.8%、20代は16.9%が「抗菌薬を人にあげたことがある」と回答している。年代を重ねるごとに「抗菌薬を人にあげたことがある」人は減っている。

Q4 あなたは薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知っていますか

(単数回答、n=700)



薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知ったと答えた人は40.1%であった。これは昨年より3.2ポイント増加となった。しかし、2019年と比較をすると9.5ポイント減少している。

Q5 あなたは日本で年間どれくらいの方が薬剤耐性菌の感染症で亡くなっていると思いますか

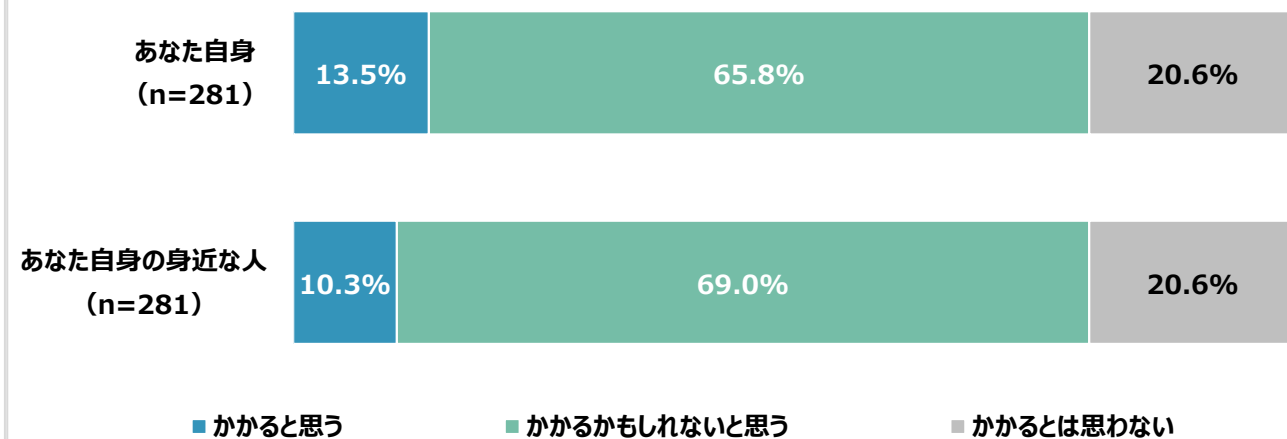
(単数回答、n=281)



「薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉聞いたことがある」と回答した人のうち、「日本で年間どれくらいの方が薬剤耐性菌の感染症で亡くなっていると思いますか」に対して最も多い回答は「100人～1,000人未満」(44.1%)であった。

Q6 あなた自身や身近な人が近い将来（数年以内に）薬剤耐性菌の感染症（肺炎、尿路感染症など）にかかると思いますか

(単数回答、n=281)

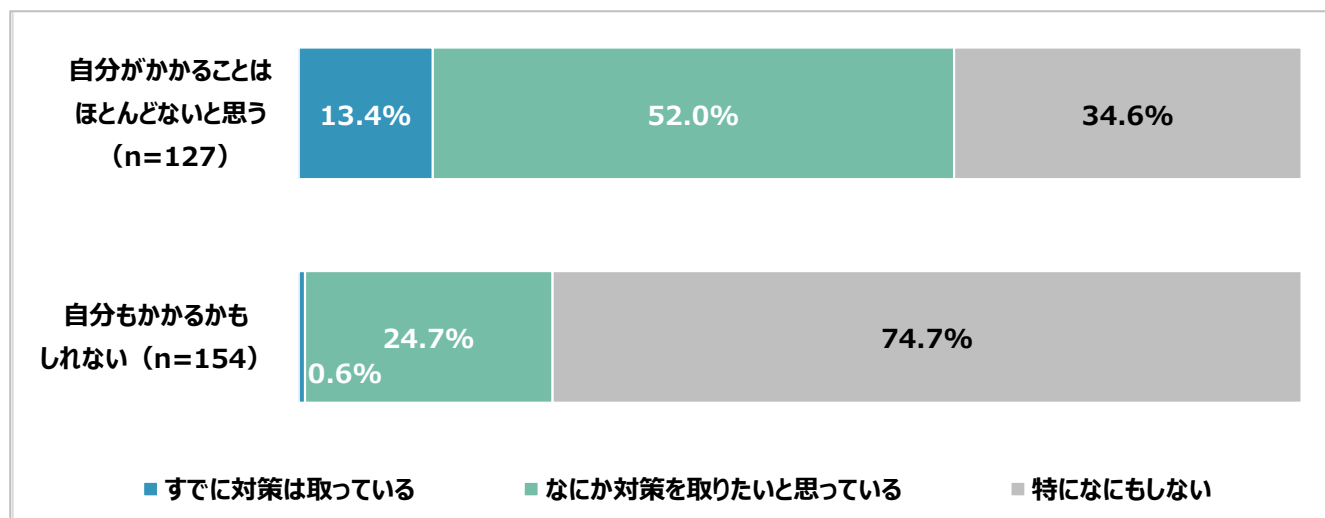


「薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉聞いたことがある」と回答した人のうち、「自分自身が近い将来(数年以内に)薬剤耐性の感染症にかかると思う」「かかるかもしれないと思う」と回答した人をあわせると79.4%だった。

あなた自身の身近な人に対しては、「かかるかもしれないと思う」「かかるかもしれないと思う」をあわせると79.4%だった。約8割の人が薬剤耐性菌の感染症にかかる可能性を考えている。

Q7 薬剤耐性、薬剤耐性菌の対策についてお答えください

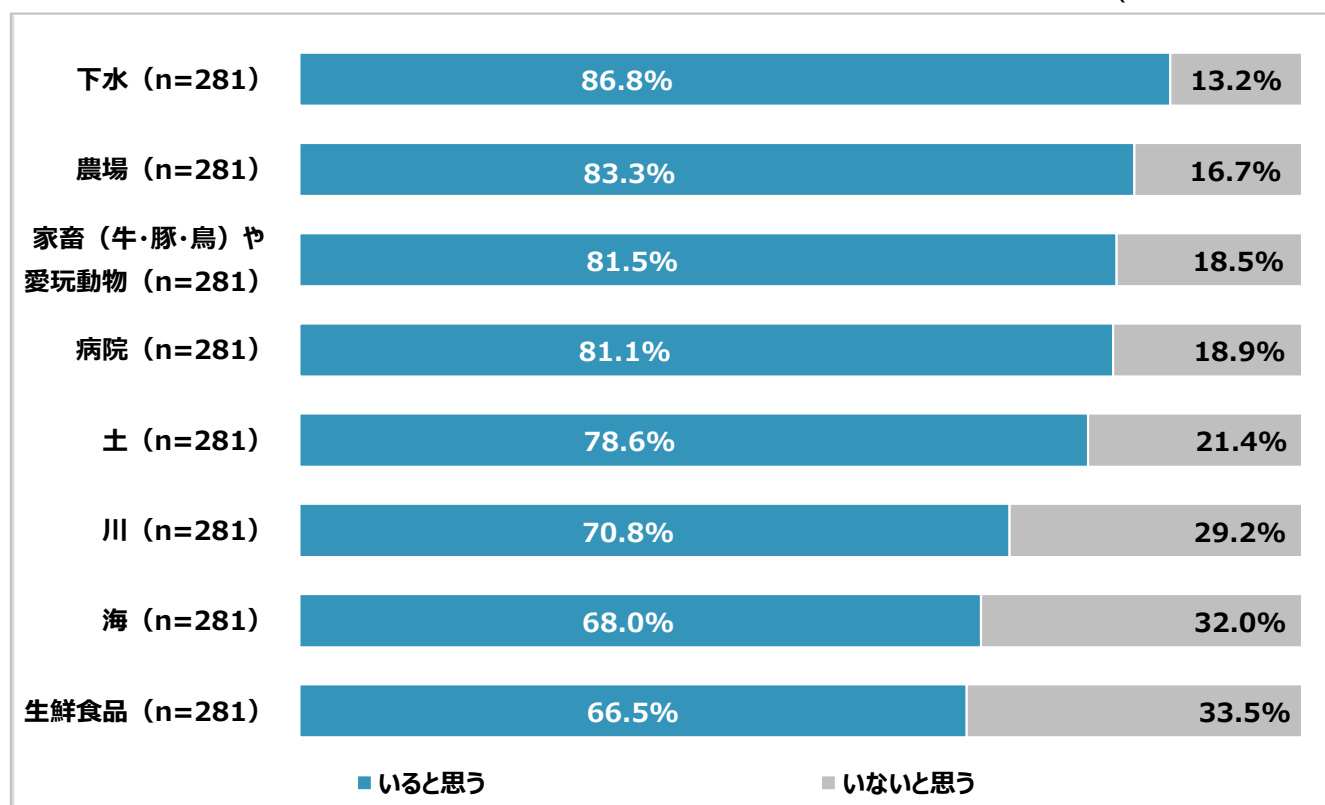
(単数回答、n=281)



「薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉聞いたことがある」と回答した人のうち、薬剤耐性菌の感染症に自分がかかることはほとんどないと思うし「特になにもしない」人は34.6%であった。一方で、自分もかかるかもしれないと思っているが「特になにもしない」と回答した人は74.7%であった。

Q8 あなたはどこに薬剤耐性菌がいると思うかそれぞれお答えください

(単数回答、n=281)



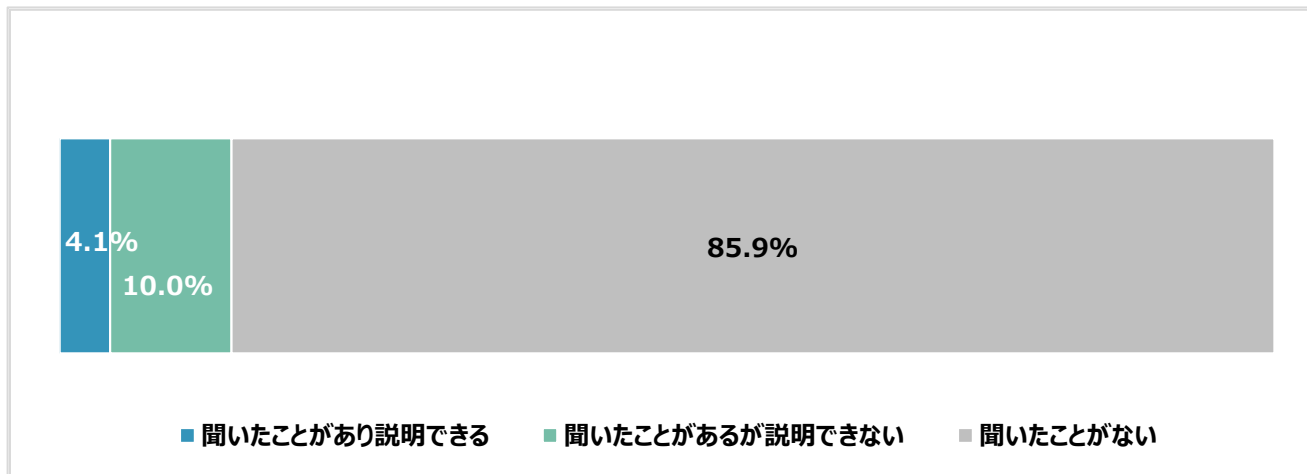
「どこに薬剤耐性菌がいると思うか」をそれぞれの場所ごとに聞くと、「いると思う」と回答した人が最も多い場所は「下水」となり86.8%が回答した。次いで、「農場」83.3%と続く。最も低い「生鮮食品」でも66.5%と6割を超える結果となった。

※薬剤耐性菌は院内だけでなく、市中、自然や動植物の中など、さまざまな環境（上記選択肢全て）から見つかっている。

Q9

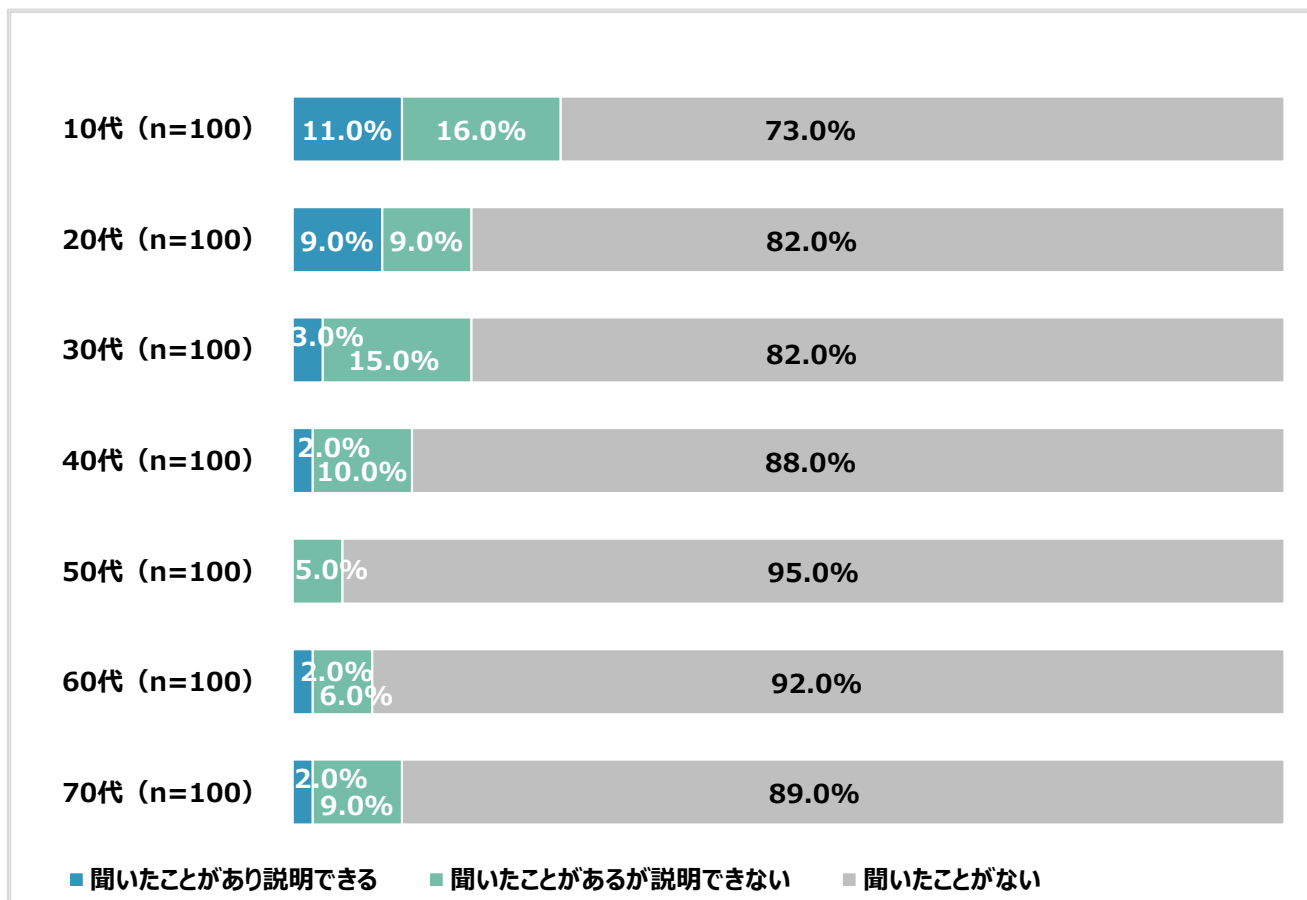
あなたはワンヘルスアプローチという言葉を知っていますか

(単数回答、n=700)



「ワンヘルスアプローチという言葉を知っているか」と聞くと、「聞いたことがある」と回答したのは合計14.1%。そのうち「聞いたことがあり説明できる」のは4.1%にとどまった。

【年代別】

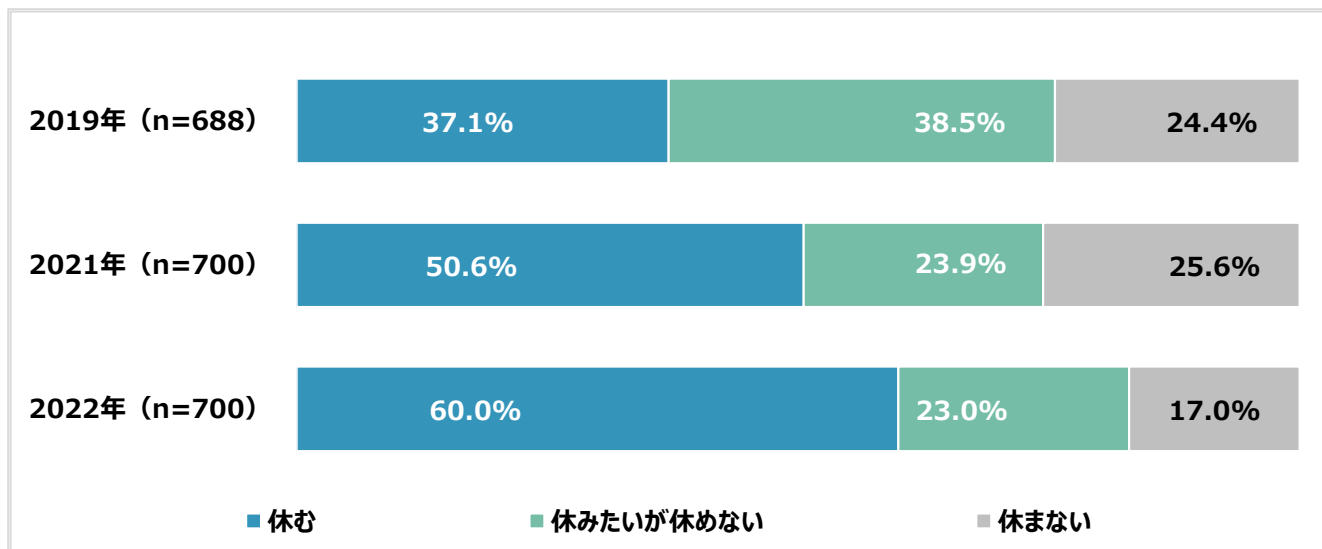


「ワンヘルスアプローチという言葉を知っているか」を年代別で比較すると、認知度が最も高い年代は10代となり、27.0%が「聞いたことがある」と回答している。

Q10

例えば今朝起きたら、だるくて鼻水、咳、のどの痛みがあり、熱を測ったら37℃でしたあなたは学校や職場を休みますか

(単数回答、n=700)



「休む」が60.0%で最も高かった。

「休みたいが休めない」、「休まない」をあわせ40.0%が結果的に「休まない・休めない」と回答した。同様の質問をコロナ禍以前の2019年8月に実施しており、「休む」という回答を比較をすると、2019年から2021年は13.5ポイント増加、2021年から2022年は9.4ポイント増加と年々増えていることがわかる。

Q11

あなたは直近1年間で、熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状が出たときに病院を受診しましたか

(単数回答、n=700)

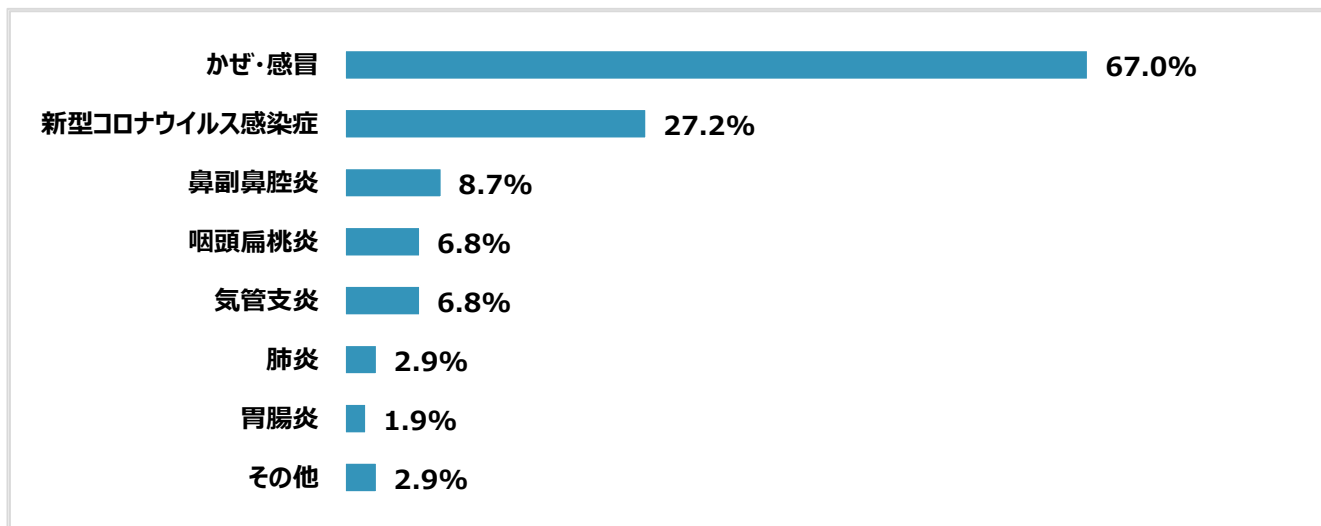


直近1年間で、熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状が出たときに病院を「受診した」と回答したのは14.7%。症状はあったが「受診しなかった」と回答したのは31.7%に上る。

Q12

あなたが熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状で病院を受診した際、
何と診断されましたか

(複数回答、n=103)

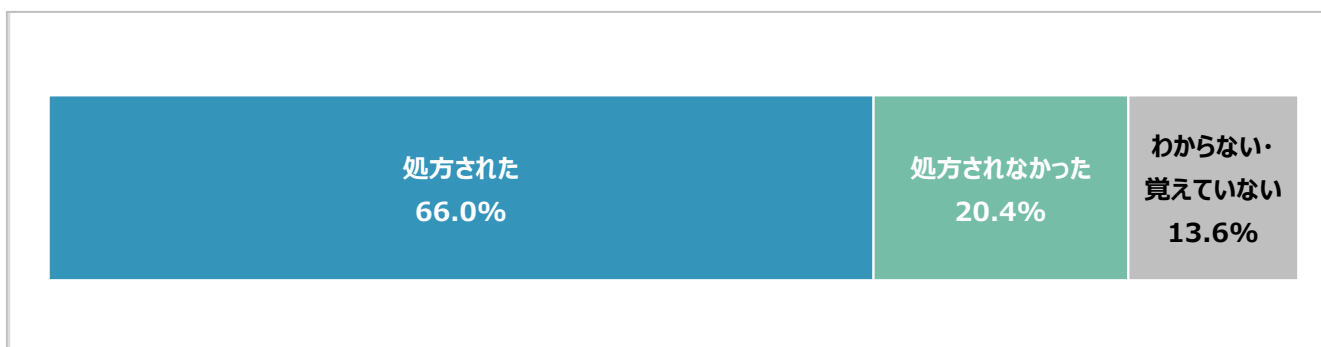


病院を受診した人の診断を聞くと「風邪・感冒」が最も多く67.0%、
次いで「新型コロナウイルス感染症」となり27.2%が回答した。

Q13

あなたが熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状で病院を受診した際、
抗菌薬・抗生物質を処方されましたか

(単数回答、n=103)



熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状で病院を受診した際、
抗菌薬・抗生物質を「処方された」と回答したのは66.0%となった。

Q14 あなたが抗菌薬・抗生物質を処方された際の行動についてお答えください

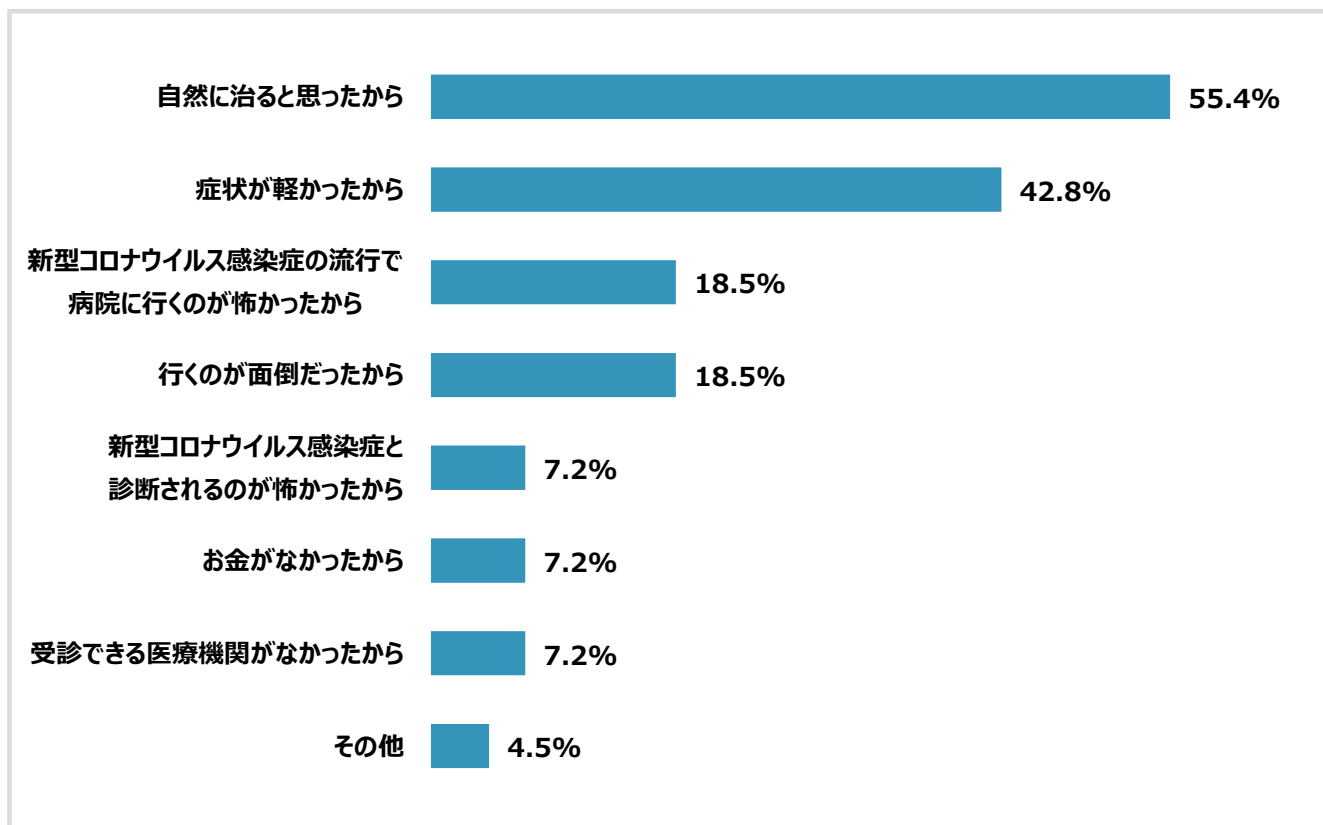
(単数回答、n=68)



熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状で病院を受診した際、抗菌薬・抗生物質を「処方された」と回答した人に、抗菌薬・抗生物質を処方された際の行動について聞くと、「処方された分を最後まで飲み切った」と回答した人が最も多く83.8%となった。しかし、「途中でよくなったので、自己判断で飲むのをやめた」11.8%、「自己判断で飲んだり飲まなかったりした」4.4%という人もいた。

Q15 熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状がありながら、病院を受診しなかった理由をお答えください

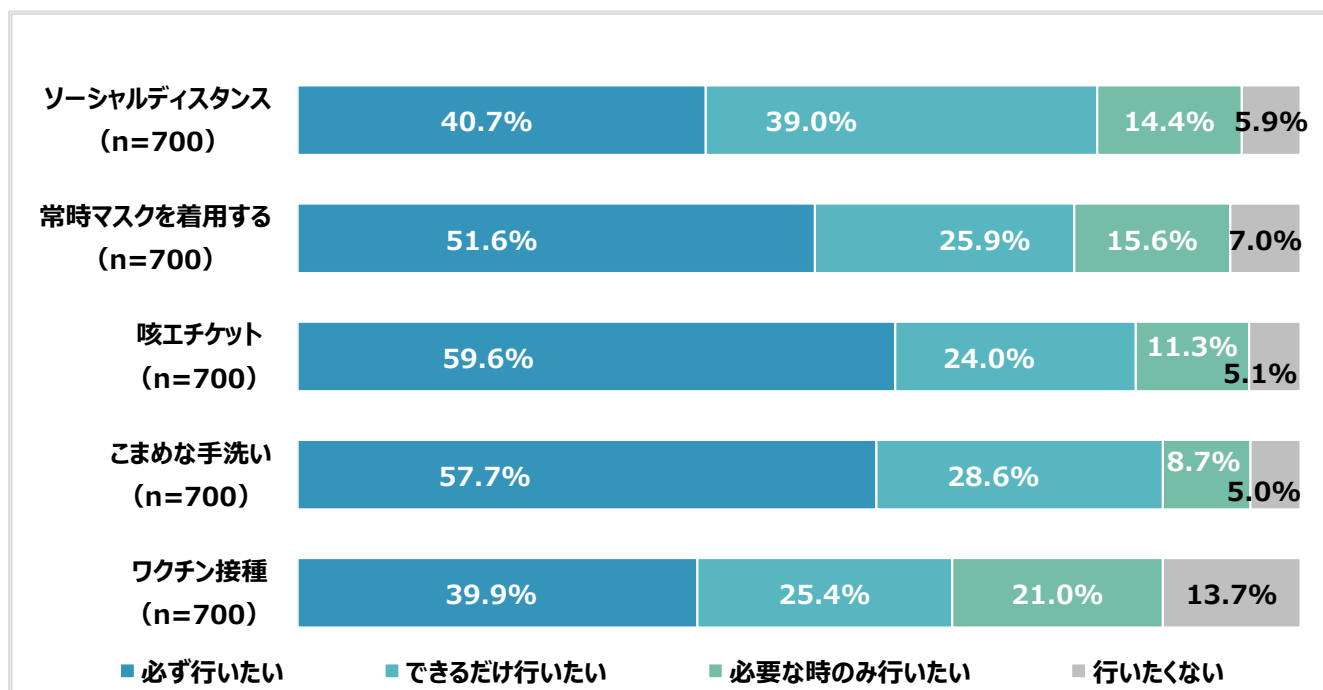
(複数回答、n=222)



熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状で「病院を受診しなかった」と回答した人の理由は、「自然に治ると思ったから」が55.4%で最多。次いで「症状が軽かったから」42.8%と続く。

Q16 今後の感染症予防対策として、あなたが続けようと思っていることをお答えください

(単数回答、n=700)



今後の感染症予防対策として「必ず行いたい」のは「咳エチケット」との回答が59.6%で最多。「行いたくない」と回答した人が最も多いのは「ワクチン接種」だが、それでも13.7%にとどまる。

- 「抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける」、「抗菌薬・抗生物質はかぜに効く」が間違っている、と正しく回答できる人の割合は2割前後で過去2年間変化は見られない。「抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおきる」が正しいと回答した人は4割を越える程度である。

抗菌薬の副作用など具体的な薬の服用方法については、ある程度浸透してきているかもしれないが、「抗菌薬・抗生物質はかぜには効果がない」といった基本的な知識の普及はこの数年でほとんど進んでいないことがわかった。

- さらに、「家にとってある抗菌薬・抗生物質がある」と回答した人は27.4%であり、昨年より9.5ポイント増えていた。「とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある」と回答した人は25.5%であり、昨年より9.0ポイント増加した。年代別では10代、また同居している15歳以下の子どもがいる人で「とっておいた」と回答した割合が40%を超えた。

さらに、「とっておいた抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある」人は、男性(12.1%)の方が女性(5.9%)よりも多く、年代別では若い世代ほど多くなり、10代では17.8%といちばん多かった。

これまでの調査でも、抗菌薬の適正使用に関する知識は若い世代の方が正しい知識を持っている人が少ないことがわかっていて、今回の調査では、若い世代だけでなく、抗菌薬を取り置きして別の機会に服用している人の割合が増加しており、全体的に抗菌薬の不適切な使用が増えている可能性を示した。

- また、毎年実施している当センターの調査では、抗菌薬・抗生物質という言葉の認知は、2020年の89.7%をピークに、2021年84.7%、今年は81.7%と低下した。薬剤耐性・薬剤耐性菌という言葉の認知度も40%程度であり、2019年から増加は見られていない。Covid-19流行の影響で感染症に対する関心は高まったかもしれないが、薬剤耐性や抗菌薬の適正使用に関する関心はやや薄れてしまった可能性がある。

- 日本における年間の薬剤耐性菌の感染症による死亡者数に関して、44.1%の人が「100人-1,000人未満」と回答した。「100人未満」という回答とあわせると60.1%の人が、薬剤耐性菌による感染症で亡くなるのは年間1,000人未満と考えていることになる。

日本において薬剤耐性菌の中で頻度が高いメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)とフルオロキノロン耐性大腸菌(FQREC)の菌血症*1による2017年の推計死亡数は、併せて約8,000名と報告されている。

他の薬剤耐性菌も含めると、それ以上の人が死亡していることが推測され、薬剤耐性による疾病負荷は、一般の人には低く見積もられている。

*1. 菌血症とは血液中に細菌が入り込んだ状態。さまざまな感染症で菌血症となりうるが、菌血症をきたすとより重症となり死亡率が高くなる。

- 薬剤耐性や薬剤耐性菌という言葉を知ったことがある人の約8割が、自分や身近な人が近い将来、薬剤耐性菌の感染症にかかるかもしれないという認識があった。その一方で、「自分もかかるかもしれないので、すでに対策は取っている」と回答した人は0.6%、「何もしない」と回答した人は74.7%であった。薬剤耐性対策についての情報が十分に届いておらず、どのような対策を取ればよいのか分からない人が多数いるのではないかと推察される。
- 「ワンヘルスアプローチ」という言葉は、聞いたことがない人が85.9%と認知度が低かった。聞いたことがある人は年代別では10代で最も多く、27.0%が「聞いたことがある」と回答した。若い世代ほど「抗菌薬の適正使用」に関する知識が低いのは逆の傾向であった。
- 直近1年間で上気道症状(熱・のどの痛み・咳・くしゃみ)があって病院を受診した人(全体の14.7%)のうち、66%が「抗菌薬を処方された」と回答した。これまでの調査(2019年、2020年)では、抗菌薬を処方されたのは50%前後であり、今回は増加した。実際に上気道症状で抗菌薬を処方される場面が増えているのか、抗菌薬ではない処方薬を抗菌薬とした誤解なのかは、今回の調査結果だけでは推測できない。
- 直近1年間で上気道症状(熱・のどの痛み・咳・くしゃみ)があって病院を受診しなかった(全体の31.7%)理由は、「自然に治ると思ったから」「症状が軽かったから」がそれぞれ55.4%、42.8%であった。一方で、「新型コロナウイルス感染症の流行で病院に行くのが怖かったから」18.5%、「新型コロナウイルス感染症と診断されるのが怖かったから」7.2%、「受診できる医療機関がなかったから」7.2%と、受療行動が制限された可能性のある回答が見られた。上気道症状がある場合の受療行動は、Covid-19流行の影響もあり、少しずつ変化してきていると思われる。
- 発熱など体調不良の時に学校や職場を「休む」という回答は今回60.0%だった。2019年は37.1%、2021年は50.6%であり、年々増加している。
また、今後の感染症予防対策として「必ず行いたい」「できるだけ行いたい」との回答が一番多かったのは「こまめな手洗い」(86.3%)、ついで「咳エチケット」(83.6%)であった。
Covid-19に対する感染対策の意識が進み、テレワークや職場の体制が整ってきたこと、手洗いや咳エチケットといった基本的な感染対策が浸透してきたことを示していると思われる。

AMR対策の必要性

～抗菌薬・抗生物質は不適切な使用により、本当に必要な時に効かなくなってしまう～

抗菌薬・抗生物質は細菌が増えるのを抑えたり、殺したりする薬です。しかし、細菌もさまざまな手段を使って生き延びようとします。本来ならば効くはずの抗菌薬・抗生物質が効かなくなることを、「薬剤耐性 (AMR: Antimicrobial resistance)」といいます。2019年4月29日、国連は抗菌薬が効きにくい「薬剤耐性菌」が世界的に増加し、危機的状況にあるとして各国に対策を勧告しています。

また、日本では2種類の「薬剤耐性菌」によって2017年に国内で8,000人以上が死亡したとの推計が出ており、深刻な影響が懸念されています。

日本では外来での抗菌薬・抗生物質使用が9割以上を占めており、外来診療における抗菌薬・抗生物質の適正使用を推進することが不可欠といえます。

* <https://news.un.org/en/story/2019/04/1037471>
No Time to Wait: Securing the future from drug-resistant infections
Report to the Secretary-General of the United Nations April 2019